

大和証券グループの業績と市場における位置付け

大和証券グループの業績動向と財務戦略、そして大和証券グループの事業規模やシェアなど、市場における位置付けについて説明します。

■ 主な経営指標の推移*

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
営業収益 (百万円)	714,909	488,044	387,658	453,813	519,337
純営業収益 (百万円)	464,056	284,932	270,809	352,434	390,432
経常利益 (百万円)	177,795	25,849	29,200	96,130	120,433
販売費および一般管理費 (百万円)	286,948	262,163	246,701	259,914	275,544
当期純利益 (損失) (百万円)	64,550	(130,547)	(6,322)	42,637	52,665
総資産額 (百万円)	7,694,051	7,827,306	9,502,825	10,765,665	12,378,961
株主資本当期純利益率 (ROE) (%)	9.3	—	—	7.4	8.4
一株当たり当期純利益 (損失) (円)	48.62	(98.27)	(4.75)	31.66	39.03
一株当たり年間配当額 (円)	13.00	6.00	6.00	10.00	13.00
一株当たり株主資本 (円)	539.72	429.68	407.84	453.60	486.70

* 2001年度より、改正後の「証券業経理の統一について」(2001年9月28日付日本証券業協会理事会決議)を適用しています。そのため、2000年度についても、改正後の基準にもとづき組替えを行なっています。

2004年度の業績動向

2004年度の営業収益は、受入手数料、トレーディング損益が増加したことなどにより2003年度比14%増の5,193億円、営業収益から金融費用などを差し引いた純営業収益は、同11%増の3,904億円となりました。一方、販売費・一般管理費は同6.0%増の2,755億円にとどまったことから経常利益は同25%増の1,204億円、当期純利益は同24%増の526億円と増益となりました。

大和証券グループの財務戦略

株主価値の持続的な向上のためには、リターンとリスク双方のバランスがとれた財務戦

略が重要と言えます。

大和証券グループはこれまで、財務安全性を高めつつ、連結ROE*1を向上させることを重視してきました。その結果として、2004年度までに財務体質の強化と信用格付の向上、また大手総合証券3社中最高の連結ROEという成果を得ました。さらに連結ベースの配当性向*2を30%とする配当方針も確立しています。今後は、これらの基本戦略をさらに発展させ、ROEに加えてリスク勘案後の業績や営業基盤の拡大も重視した戦略をすすめていきます。

大和証券グループでは、証券業のリスク(市場リスク*3や信用リスク*4など)の特性を踏まえ、収益変動に強い損益分岐構造の構築やリスク管理を行ない、高い財務安全性を確保して

いくとともに、経営資源を収益性や成長性の高い分野へ効率的に配分することにより、リスク勘案後のリターンを高めていきます。

財務情報について詳しくは「2005年3月期アニュアルレポート」をご覧ください。

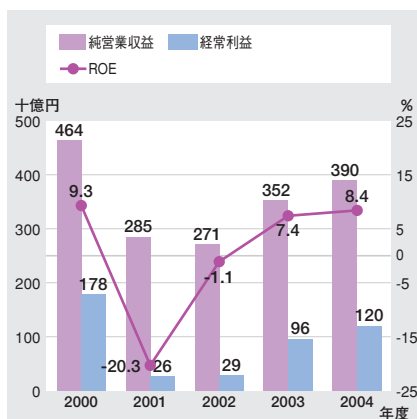
*1 株主資本当期純利益率といわれ、株主あるいは投資家の立場から、投下した資本がどれだけの利益を生み出したのかをみる指標。当期純利益を(期首期末平均)株主資本で除したものの。

*2 当期利益に対する配当金の割合。配当性向は内部留保割合と裏腹の関係にあり、一般的に配当性向の低い企業の場合は、その分だけ企業の内部留保が手厚く行なわれていることを意味します。

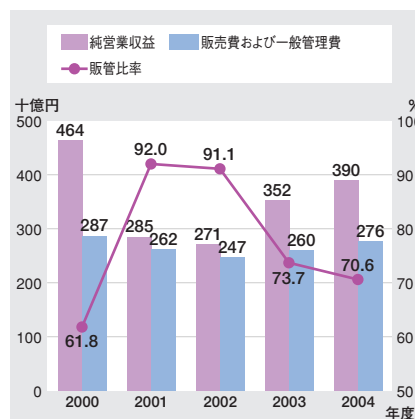
*3 株式・金利・為替およびそれらの派生商品等の市場価格や金利変動によって保有する金融資産・負債の価値が変動した結果、損失を被る可能性を指しています。

*4 取引の相手方が契約を履行できない結果、損失を被る可能性を指しています。

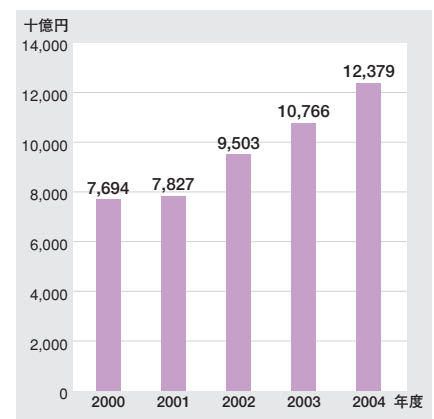
■ 純営業収益、経常利益、ROEの推移



■ 純営業収益と販売費および一般管理費の推移



■ 総資産額の推移



市場における 大和証券グループの位置付け

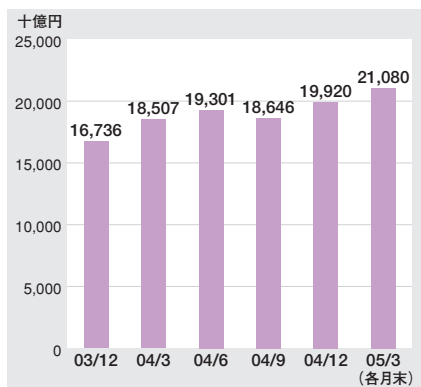
■リテール証券業務(大和証券)

大和証券で、主に個人および未上場法人(金融法人を除く)のお客様からお預かりしている有価証券やお金などの資産(大和証券顧客資産)の総額は、2005年3月末現在、21.1兆円であり、2004年3月末に比べ2.6兆円増となっています。

これはバブル期の水準(1989年12月、18.0兆円)を超えており、日本の個人金融資産1,400兆円の1.5%に相当します*5。

*5 大和証券顧客資産は一部に法人のお客様の資産を含みます。統計上個人金融資産との対比は厳密には適切ではありませんが、大まかに事業規模を判断する指標として参考のために算出しました。

■大和証券顧客資産(金融法人を除く)の推移



■ホールセール証券業務(大和証券SMBC)

当社グループの投資銀行である大和証券SMBCは、2004年度主幹事リーグテーブル*6(投資銀行部門)において社債総合(普通社債+財投機関債)および株式公募・売出しの2部門で1位を獲得しました。社債総合部門では、2001年度から2004年度まで4年連続してトップシェアとなっています。

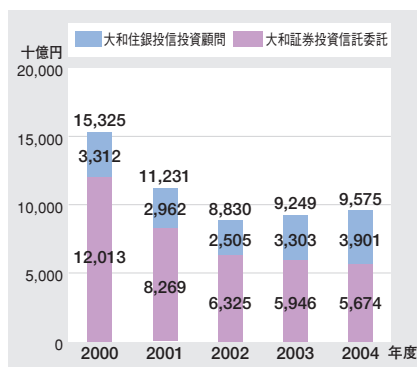
*6 各証券会社がどれだけ株式・債券等の発行案件を獲得したかを示すランキングです。

■資産運用業務(大和証券投資信託委託、大和住銀投信投資顧問)

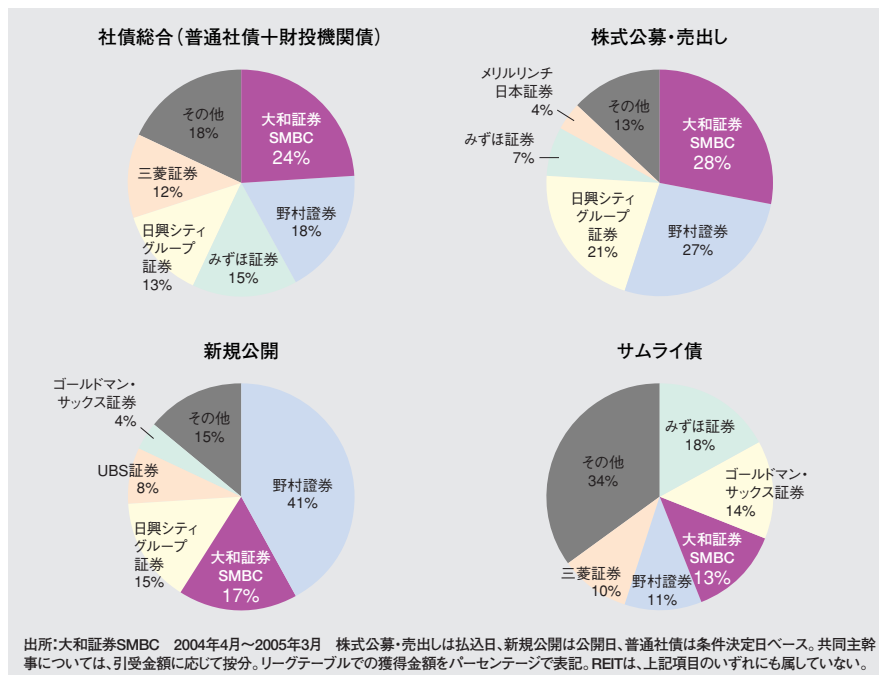
2005年3月末の運用資産残高は、大和証券投資信託委託が5兆6,740億円(前年度比272億円減)、大和住銀投信投資顧問が3兆9,010億円(同598億円増)となりました。

2社の運用資産残高の合計は9兆5,750億円です。

■資産運用業務の運用資産残高の推移(年度末)



■ホールセール証券業務のシェア(2004年度主幹事リーグテーブル)



■リサーチ業務(大和総研)

大和総研は、日経金融新聞の「人気アナリスト調査」では2年連続の1位、『エコノミスト』誌の「アナリスト・エコノミストランキング」でも2年連続1位を獲得しています。

■日経金融新聞「人気アナリスト調査」全セクター(総合部門除く)十ストラテジスト等(所属会社別)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
1位	野村証券	野村証券	大和総研	大和総研
2位	モルガン・スタンレー・ディーン・ウィッター証券*1	大和総研	野村証券	野村証券
3位	日興シロモン・スミス・バーニー証券*2	日興シロモン・スミス・バーニー証券*2	ドイツ証券	UBS証券

*1 現 モルガン・スタンレー証券
*2 現 日興シテイグループ証券